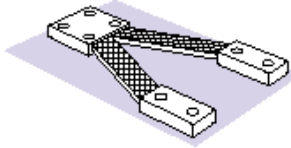
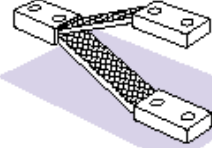


可とう端子の特殊使用例

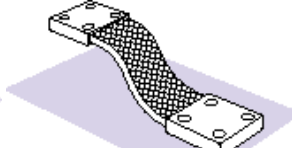
水平分岐型



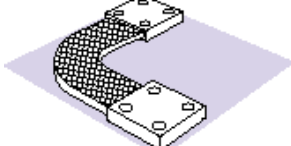
垂直分岐型



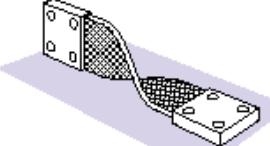
垂直レベル違い型



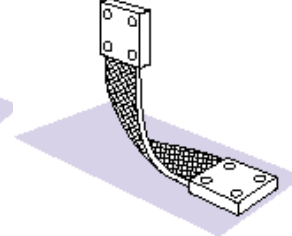
水平曲げ型



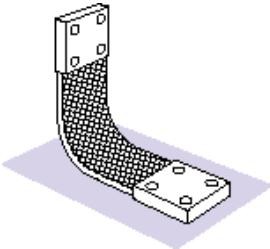
90°ネジレ型



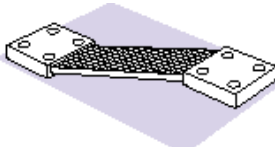
ネジレL型



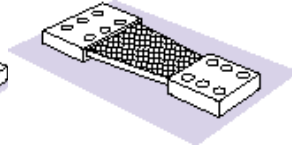
L型



水平レベル違い型



端子幅違い型

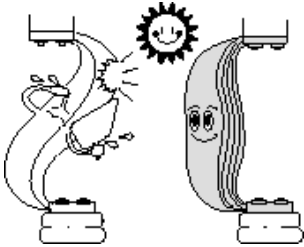


上記形状は、サイズによっては製作できない場合があります。

可とう端子は可とう銅帯、シャントワイヤ、平網組線、平リード線、フレキシブル導体、たわみ導体などさまざまな呼び名がありますが、同一機能製品です。

可とう端子の使用目的

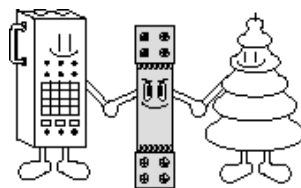
1. 熱膨張、収縮の吸収のため



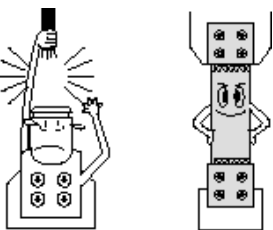
2. 振動の吸収のため



3. 電気機器との接続のため



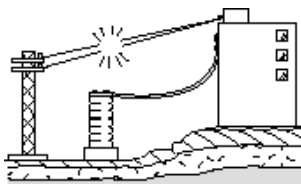
4. 布設時の寸法の修正および調整のため



5. 地震時の振動吸収のため



6. 地盤沈下による接続間隔の吸収のため



可とう端子は可とう銅帯、シャントワイヤ、平網組線、平リード線、フレキシブル導体、たわみ導体などさまざまな呼び名がありますが、同一機能製品です。

可とう端子の特殊形状



可とう端子は可とう銅帯、シャントワイヤ、平網組線、平リード線、フレキシブル導体、たわみ導体などさまざまな呼び名がありますが、同一機能製品です。

可とう端子取り付け時の留意点

可とう端子取り付けの際には平編組線を5～10mm程度たわませてご使用ください。
(下図参照)

可とう端子取り付け(例)

